

氏名	堀田 昌宏
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第5660号
学位授与の日付	平成30年3月23日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Outcomes of resection and joint-preserving arthroplasty for forefoot deformities in patients with rheumatoid arthritis (関節リウマチ患者の前足部変形に対する切除関節形成術と関節温存手術の治療成績)
論文審査委員	教授 木股敬裕 教授 吉山昌宏 准教授 佐田憲映

学位論文内容の要旨

関節リウマチ(RA)に対する薬物療法の進歩により関節破壊の進行が抑制され、足趾変形に対して関節温存手術の適応が広がっている。2010年以降に岡山大学病院整形外科でRA前足部変形に対して切除関節形成術を施行した16足を切除群、関節温存手術を施行した18足を温存群とした。平均年齢は切除群67.1歳、温存群61.3歳、平均罹病期間は切除群23.6年、温存群19.1年、平均経過観察期間は切除群37.3ヵ月、温存群33.5ヵ月であった。検討項目として日本足の外科学会RA足部・足関節判定基準(JSSF scale)と術後合併症について検討した。術前後のJSSF scaleは切除群で61.3点から83.9点、温存群では62.2点から90.8点とそれぞれ有意な改善を認めた。切除群では有痛性胼胝の再発を6足、claw toeの再発を3足に認め、温存群では有痛性胼胝とhammer toeの再発をそれぞれ1足ずつに認めた。RA前足部変形に対する切除関節形成術と関節温存手術はともに短期的には良好な治療成績であったが、足趾MTP関節の機能面に関しては関節温存手術の方が治療成績は良好であった。

論文審査結果の要旨

関節リウマチにおける足部変形に対する手術には、関節切除術と関節温存術がある。薬物治療の進歩により前者は減少傾向にあるが、同一施設で同じ評価方法で、両者を比較した研究はない。

申請者は、後ろ向きに両手術による29例34足を対象として、X線学的評価とつま先立ちなどの臨床評価を詳細に行った。その結果、両者ともに、術前と比較して術後に著明な臨床症状の改善を認め、とくに関節温存術はつま先立ちなどのADLに関する評価で優れていた。今後の更なる前向き研究が期待されるが、本研究によりリウマチ足変形に対して、個々の患者さんに応じた最適な術式を選択できる可能性を見出した。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。